



2013～14 年度  
国際ロータリー会長

Ron D. Burton

# Weekly Report Niigata



2013～14 年度  
新潟ロータリー会長

山本 正治



## ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を

2013～14 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 12月第 3例会 (2013.12.17) No.3022

### (1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

### (2) 山本 正治会長挨拶

今日の例会で、ポリオ プラスの募金をお願いしたいと思っています。多くの方々から募金へのご理解をいただくために、「ポリオ プラスのプラスとは」についてお話しをします。

最初に、ポリオとは何かについてご説明をします。ポリオとは、一般に小児麻痺と呼ばれ、医学的正式名称は急性灰白髄炎です。3歳以下の子供に多い病気で、ポリオウイルスが口から入って感染します。発熱後に意識障がいを起こし、その後手や足が麻痺するのが特徴です。

わが国でも今から50年以上前は多発していましたが、1961（昭和36）年を境に患者発生数は激減しました。この年は、ポリオの生ワクチン（セービンワクチン）が投与された年です。安全性が確認されていないソ連製のワクチンを当時の古井善実厚生大臣の「責任は大臣が取る」の一言で緊急輸入され、1300万人の小児に投与されたからです。

私はなぜロータリーがポリオ予防に取り組んだのか、またなぜロータリーではポリオ・プラスと言うのか、疑問に思っていました。この機会に調べました。

1978年国際ロータリーの理事会は3-Hプログラムを設立しました。3-Hとは、Health（保健）、Hunger（飢餓）、Humanity（人権、人間尊重）の頭文字です。1979年にはロータリー財団に引き継がれました。1979年フィリピンのあるパストガバナーが、3-Hプログラムの一環としてポリオ予防事業を提案しました。生後3カ月から3年の小児約600万人を対象に5年間ワクチン投与を行うプロジェクトでした。

5年を経ずして予防効果が明らかになりました。国際ロータリーの関係者が目に見える成果を挙げられるプロジェクトと考えても不思議ではありません。1982年の国際ロータリーの理事会で「2005年のロータリー100周年までにポリオを世界から撲滅する」と決定しました。

次に、ポリオ プラスと言われるのかについて調べてみました。1985年、国際ロータリーは創立80周年に当た

り、ポリオ プラス・プログラムを発表しました。初めてプラスという用語が使われました。プラスとは麻疹、ジフテリア、破傷風、百日ぜき、結核の予防にポリオを加えるという意味です。その後の活躍は目覚ましく、1994年には北米・中米・南米の撲滅、2000年には日本を含む西太平洋地域の撲滅、2002年にはヨーロッパ地位の撲滅を宣言するに至りました。ポリオの99%は根絶したといわれ、現在残る地域はパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアとなりました。しかしごく最近のWHO情報として、内戦状態にあるシリアでポリオが発生しているとのことでもあります。

ロータリー財団が行うポリオ プラス活動は、2007年にビル ゲイツ財団の支援が加わり、この支援は2012年6月30日まで続きました。

以上のことから分かりますように、従来から行われていた小児の主な感染症の予防にポリオを加えたという意味の言葉であります。

しかしごく最近、ポリオ プラスの意味が変わりつつあります。先ほど述べたように国際ロータリーとロータリー財団は世界のポリオの99%を撲滅させ、残りわずか3カ国となりました。ファイナルゴールは指呼の間です。

今までのポリオ撲滅事業を通してコールドチェーンの確立、世界各地にある研究所間連携の完成、官民協力体制の確立など、数多くの感染症対策のノウハウが蓄積されました。このノウハウは他の感染症対策にも使えます。さらに感染症だけでなく健康問題全般（例えばビタミン剤の投与など）にも使えることが分かりました。

そこでポリオ プラスとは「ポリオ撲滅事業がもたらしたプラスの遺産」の意味合いで使用されつつあります。ロータリー活動のおかげでポリオが過去の病気となり、次の課題を模索している中での新しい考え方です。

2013年以降も、未来の夢計画と並行してポリオ プラス・プログラムは継続されます。皆さまのご理解とご支援をお願いします。

### (3) ビジター紹介

・松本 英明君（浪江 RC）

#### (4) 新会員の紹介



SMB C日興証券(株)  
新潟支店長 中山 康  
親睦委員

昭和62年(1987年)日興証券(株)入社 旭川支店に配属となりました。赴任地は、新人当時の旭川をかわきりに、東大阪、横浜、厚木、石川県金沢、東京本社を経験し、支店長としては山形支店、高知支店、宇都宮支店を経て、この10月より新潟支店にまいりました。出身地は埼玉県越谷市で、現在は神奈川県横浜市に自宅を構えております。家族は、入社3年目で結婚した妻(旭川出身)と娘2人です。単身赴任歴も、11年を超え転勤のたびに荷物が増え、今回は上大川前通2番町の2LDK マンションに住むこととなりました。学生時代は、高校、大学と柔道を続け、3段を持っております。現在は柔道をするのではなく、趣味といえばゴルフとなると思います。ゴルフの腕前はたいしたことなく、自分としては100を切れれば満足で、アウト、インともに40代で回ることが目標です。新潟は初めての経験ですが、美味しいお酒にお米、新鮮な魚があり、これからの生活にワクワクしています。どうぞ、よろしくお願い致します。

#### (5) 2014年～15年度地区役員委囑状伝達

- ・小山 楯夫君 会員増強・拡大・活性化委員
- ・高橋 清文君 ローターアクト委員長
- ・吉田 和弘君 ライラ委員

#### (6) 委員会報告

- ・樋熊 紀雄財団委員長よりポリオプラス寄付のお願い(6,3150円の御協力を頂きました。)
- ・高橋 康隆料理研究会幹事より12月11日発足報告

#### (7) ニコニコボックス紹介(金親 顯男君)

- ・竹石 松次君 中山 康さんを歓迎して。
- ・吉田 和弘君 12/11に第1回料理研究会で皆さんにご来校いただきました。次回開催を「鮭」とともにお待ちしております。
- ・若杉 武君 風邪から拗らせ9日間入院、漸く本日のRC例会に出席できニコニコです。
- ・高橋 秀松君 25年1月に特別養護老人ホーム「有明園」がオープンします。数年後、皆様のおしをお待ちしています。

#### (8) 卓話「中国では、普通のこと」

「イエダプラス」代表 家田 利一氏



(9) 本日の出席率 74.45 %

(2週間前メーク後 88.64 %)

## コ ラ ム

新潟運輸(株)  
社長室長 織戸 潔

### 「40歳代の思い出に」

3年前の48歳の時、40代の思い出として、何かしたいと急に思いつき、その年の夏季休暇に自転車で神奈川県にある実家(湯河原)へ帰ろうとチャレンジしました。と言っても新潟からではとても無理なので、輪行袋を担ぎ、朝一番の新幹線に乗り、東京駅から東海道線に乗り継ぎ、川崎駅で下車し、そこからスタートすることに致しました。川崎市内に先祖の墓がある関係で、途中、墓参りと、横浜の母校に寄道をしてから、国道16号と1号線をひたすら西へと下って行きました。片道約120kmの工程で、大したことはないと思っていたのですが、真夏の日中、炎天下の中を走行することは、如何に大変かを思い知らされました。熱中症にならないよう、水分補給には一番気を付け、コンビニを見つけては立ち寄り、スポーツドリンクを飲んだり、アイスキャンデーを食べたりして、休息を十分取り、無理をせず、ペース配分には注意しました。回数は覚えていませんが10回以上は利用したような気がします。コンビニは本当に便利だなとあらためて実感しました。朝9時に川崎駅をスタートし、湯河原駅に着いたのは、午後4時を回っていました。足の疲労も限界に達していましたが、実はここからが最大の難関で、実家は駅から5kmほど離れたところで、山を切り開いたところにあります。とても自転車では登っていけないくらいの急な坂道な為、結局押して歩くしかないので。足を引きずりながら、何とか無事家にたどりついた時には、やっと着いたという安堵の気持ちだけでしたが、徐々に達成感と充実感を味わうことが出来ました。

パンク修理キットと、スペアチューブ2本を携帯しましたが、幸いパンクもせず走り通すことが出来、ほっとしました。交通量の激しい国道を走るにはやはり勇気がいります。大型車が通り過ぎた後は、風圧でハンドルを取られることもしばしばあり、又、幅寄せされたこともありましたが、事故に遭わずにすみました。当初は、帰路も東京まで自転車で走る予定でしたが、両親の反対に合い(両親には自転車で来たことを知らせていなかった)、帰りは断念することとしました。僅か120kmの片道だけの走行でしたが、炎天下という過酷な条件でのチャレンジで、40歳代の思い出として実行出来たことは本当によかったと思います。また機会があれば往復にチャレンジしてみたいと思います。

12月24日の例会予定 会員スピーチ

コバリキ100周年記念「小林力三物語」  
(株)コバリキ 代表取締役社長 小林 建君